

子ども(乳幼児)に対する 胸骨圧迫と人工呼吸

胸骨圧迫

乳児の場合

胸の真ん中(胸骨の下半分)を中指と薬指2本で、胸の厚みの1/3が沈む程度圧迫します。



幼児の場合

胸の真ん中(胸骨の下半分)を胸の厚みの1/3が沈む程度圧迫します。体格に合わせて片手で、若しくは両手で圧迫します。



人工呼吸

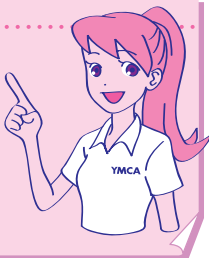
気道確保をして、約1秒かけて胸が上がるのが確認できる量の息を2回吹き込みます。乳児の場合は自分の口で乳児の鼻と口を一度に覆う「口対口鼻人工呼吸」を行います。



胸骨圧迫のスピードと深さ	胸骨圧迫と人工呼吸の比率
1分間に100回以上 胸の厚みの1/3が沈む程度	30 : 2

保護者の方へ

呼びかけても反応がなく、普段どおりの呼吸がないときには、まさに生命の危機が迫っており、速やかに胸骨圧迫、人工呼吸などの応急手当が必要です。かつ、医療機関へ引き継ぐまで絶え間なく続けることが重要で、いかに早く心肺蘇生法に着手できるかが救命のポイントです。いつ、どのような事故が子どもや家庭を襲うかわかりません。保護者として、心肺蘇生法を速やかに確実に行えるよう心肺蘇生法講習会を受講されることをおすすめします。



こんな順番でおぼえてください・・・ 早く助けられるよ!

おぼれている人を見つけたら! おぼれている人から目をはなさない

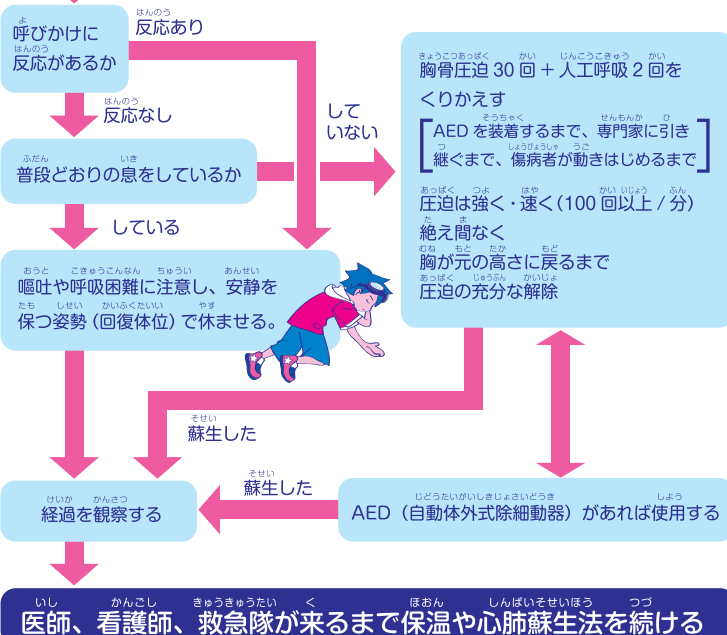
大きい声で近くの大人を呼ぶ
警察(110)・消防(119)・海上保安庁(118)

陸の上から助ける

- シャツ、棒、板などがあつたらそれにつかまらせて助ける。
- 板や浮き具など水に浮くものを投げてつかまらせて助ける。

泳いで助ける

だれもそばにいなかったときでも、自分が水の中に入って助けようとはしません。おぼれている人にひきこまれてしまい、自分もおぼれてしまうことになるからです。



AEDとは・・・自動体外式除細動器の略で、電気ショックが必要な心臓の状態を判断できる心臓電気ショックの機器です。AEDは、除細動が必要かどうかを判断し、救命の手順を音声にて指示します。